第２回 野々市中央公園拡張整備事業
基本計画検討委員会

■実施概要
日 時 ：令和 5 年 3 月 30 日（木）　10 時 00 分～11 時 50 分
場 所 ：野々市市役所　2 階　201 会議室
出席者：【委員】

石川県立大学　教授	宮口　和義
金沢工業大学　教授	西村　督
石川県立大学　准教授	上野　裕介
金沢工業大学　講師	片桐　由希子
野々市市体育協会　会長	宮川　渉
野々市市連合町内会　会長	藤田　雅顯
野々市市女性協議会　会長	澤村　昭子
野々市市社会福祉協議会　専務理事	肥田　千春
野々市市　副市長	山口　良
野々市市　教育長	大久保　邦彦
石川県白山警察署　署長	竹本　邦夫

【事務局】

野々市市　建設部	中薮部長
都市整備課	石畝課長、本吉課長補佐、北川係長、山下主査、岩井技師
教育委員会 教育部 スポーツ振興課	宮前課長、北出主査
(株)新日本コンサルタント	幸田、島、水川

配布資料：
１．野々市中央公園拡張整備事業基本計画検討委員会設置要綱
２．野々市中央公園拡張整備事業基本計画検討委員会委員名簿
３．（資料１）野々市中央公園拡張整備事業　基本計画の策定について
４．（資料２）野々市中央公園拡張整備におけるニーズ調査について
５．（参考資料）説明スライド一式

図　委員会の様子

■議事概要
1.　開会
・中薮部長より挨拶がなされた。
・事務局（本吉課長補佐）より委員の交代について説明がなされ、竹本委員より挨拶がなされた。

２．　議事
・事務局（本吉課長補佐）の司会進行により、挨拶および配布資料の確認がなされた。
・委員 11 名のうち 11 名が出席により委員会が成立したことが確認された。

（１）野々市中央公園拡張整備事業　基本計画の策定について（資料１）
・事務局（山下主査）より説明がなされた。

■意見内容

藤田委員　：今回策定する基本計画の基礎となる方向性はどのようなものか。市民が要望する最低限の機能を有する公園整備でよいと考える。金沢市や白山市に高規格のスポーツ施設があるため、大規模な大会等の利用は連携することが望ましい。
民間事業者の意見を取り入れてもいいが、全国的な事例を参考にした民間事業者の意見をそのまま受け入れるのではなく、地域性を伴う、将来にわたって利用される公園とすべきである。様々な機能を取り入れようとすると、本当に必要な機能が満足しない可能性があるため、再度、地域性を踏まえた、次の世代を育てることのできる公園の検討を行うことが望ましい。

事務局　　：今回提示したイメージ図は、民間事業者の意見を大きく反映したものである。市民が必要としている機能・求められている機能を把握するために市民ニーズ調査を実施し、地域性を踏まえた方向性の検討を行う。

片桐委員　：野々市中央公園が目指すものが見えない。計画のコンセプトである「健康」「交流」「防災」のうち、特に「交流」の具体的な実現イメージを共有することが重要と考える。大規模な公園を将来にわたって所有するために、目指す方向性や位置付けを行政としての考えを提示しないと良い施設は作れないのではないか。「野々市市総合計画」は、市の考えや方向性がわかりやすく提示されているため、総合計画の中の何を実現するための公園なのかを検討する必要がある。
また、野々市市は森林等の保全すべき緑地環境がないため、環境面で考慮すべき内容は少ないが、地域性として、数少ない自然環境を保全・整備するなどを検討することも重要と考える。

事務局　　：本基本計画は、民間事業者の意見をそのまま反映させるのではなく、「野々市市体育施設整備実施計画（令和４年３月）」における「健康」「交流」「防災」のコンセプトを基幹とすることを考えている。
「交流」の実現イメージは、大会や施設利用を通じた競技者同士の交流、日常的な公園利用による子育て世代や高齢者などの幅広い世代の交流、緑地等の自然環境との交流などを想定している。

藤田委員　：子供の屋内遊戯施設は、屋内アリーナの一角など保護者の目が届く範囲程度の規模で十分ではないか。
また、大規模なスポーツイベントの受け入れ可能な機能・規模が必要ないのであれば、子供が自由に走り回れるグラウンドや芝生広場などの、子供たちが健やかに過ごすことができる小規模な整備で十分であると考える。野々市市は民間事業者の意見を全て反映するほどの財政的余裕はなく、全ての施設を一括で整備することも困難と考える。市民と作る公園をもう一度検討すべきではないか。

上野委員　：市の身の丈に合った規模、市民が求める公園を整備すべきという点には同意する。
また、官民連携については、民間事業者のノウハウや資金の活用により、維持管理・運営も含めた検討や、利用率の向上・収益還元等のメリットも見込める。民間事業者のアイデアは上手に活用すれば良い。
事業検討スケジュールについて、「野々市市体育施設整備実施計画」が策定された後に、これから市民ニーズ調査を実施するとは、検討の順序が逆転している。本委員会で議論すべき内容やプロセスを再度整理することが望ましい。

事務局　　：「野々市市体育施設整備実施計画」では、市として整備が望ましいスポーツ施設を定めているが、本基本計画では公園事業として必要な機能を再検討する必要がある。
また、「野々市市体育施設整備実施計画」策定後、敷地条件の変更や、資材高騰等による事業環境の変化も踏まえた検討が必要と考えている。

肥田委員　：計画のコンセプトである「健康」「交流」「防災」は、全国どの公園でも実現できるテーマであり、野々市の特徴を表現できていない印象である。野々市市は、平均年齢の低

く、若い人多い。平均寿命の長さも全国トップクラスである。健康への意識が高い市民が多い自治体の特徴を踏まえて検討する必要機能であれば、市民にもわかりやすい整備方針となるのではないか。

事務局　：コンセプトの「健康」に関して、市の平均年齢は現時点では低い状況にあるが、将来は必ず社会保障費の増大・財政の圧迫は課題になる。そのため、市民の健康意識の改革や運動機会の増進を推進する方針が見えるような基本計画を作成したい。

宮川委員　：「野々市市体育施設整備実施計画」の策定委員会など、約10年前から検討に携わっている。今回は公園事業だから担当課が変わるとゼロからの検討というのは、行政の悪いところである。
昨今の社会情勢等を受けて「体育」という言葉の枠組みを超えた「スポーツ」としての活動が求められていることから、「野々市市体育協会」は令和5年4月から「野々市スポーツ協会」に名称が変更になった。スポーツ振興の観点から必要な施設を検討する必要がある。市内にない陸上競技場の整備は、市民がスポーツに関心をもつ契機となると考える。開発余剰地としての農地はほとんどなくなっているため、最後の機会である。
欲しい施設は他にも色々あるが、際限がないため、有用性などから整理が必要である。

委員長　：イメージ図に陸上競技場がないのは違和感がある。県民体育大会相当であれば公認規格も不要である。陸上競技場は、学校のクラブ活動での利用や、野々市マラソンのスタート・ゴール地点、地区や学校の運動会の会場としての利用が期待できる。運動施設のシンボルとして、大規模なものでなくても良いのでぜひ作ってほしい。
テニスコートも作るのであれば、他自治体にない、雨天対応のものが望ましい。

藤田委員　：周辺に会員制のテニスコートがあるが、集客はあまりないと聞いている。野々市市はスポーツ関係人口が多くないという印象である。
プロスポーツを目指すきっかけはWBCなどの国際的なスポーツイベントに委ねるなど、プロフェッショナルを育てる機会作りを公共事業が負担する必要はないと考える。身体を動かすことを楽しむ人を育てることが市としての役割であると思う。

事務局　：ゼロからの検討とならないよう、過去に蓄積された議論を尊重し、スポーツ推進課と連携し検討を進めている。社会情勢や物価高騰の影響を踏まえた計画の見直しは、より良い方向へ導くためのものである。今後、野々市市として、市民ニーズや競技人口を鑑みて、整備方針を検討する。

藤田委員　：これだけ大規模な施設をすべて一括で整備することは困難ではないか。段階的な整備は考えられないのか。

山口委員　：市民に使ってもらえる施設として欲しい。また、本計画は財政状況やコロナ禍によるニーズの変化、民間活力の導入など、様々な要素を取り込む必要がある。石川中央都市圏における公共施設の相互利用も推進されている。事業環境の変化を踏まえて丁寧に検討していきたい。

大久保委員：市議会や「体育施設等に関する調査特別委員会」より本基本計画に対して、市民ニーズへの対応が求められている。また、近隣自治体と同種の施設は不要ではないかという意見も出ている。
野々市市ではこれまでPFI手法を用いた公共施設の整備が進められてきた。資金調達や地方では発想できない民間ノウハウの活用による運営等において期待できる。今回の委員会資料においては、民間事業者の意見を踏まえたイメージ図を示したことで議論が進み、有意義であったと思う。

上野委員　：他の自治体において、国体に合わせた大規模なスポーツ施設の整備を計画したが、自治体規模より過大な施設整備を計画していたため、市民から反対運動が起き、市長が交代、頓挫した事例がある。本事業も、野々市市の自治体規模・財政状況や将来世代の負担も考慮した、整備方針とすることが必要である。これまでの議論の蓄積も重要ではあるが、市民意見を反映しながら、丁寧に理解を促す必要がある。

委員長　：質疑事項について考慮、反映させ、策定を進めるようお願いする。

（2）野々市中央公園拡張整備におけるニーズ調査について（資料２）
・事務局（山下主査）より説明がなされた。

■意見内容

澤村委員　：未来の利用者となる小学生の高学年や中学生、高校生も意見を出しやすい調査方法を検討してもらいたい。

藤田委員　：QR コードによる調査について、学校で配布されているタブレットを活用すれば、子供たちも答えやすいと考えられる。また、子供たちを対象とした調査では、大人になった時の公園整備の検討であることを理解してもらうことが重要である。

事務局　　：大規模事業な事業であることから、長期的スパンで検討することが必要だと認識している。将来施設を利用する子供たちや若い世代からの意見も反映できるよう、現地でのヒアリング調査や、教育機関を通じた意見聴取などの方法を検討中である。

片桐委員　：多くの様々な場所に QR コードを掲示し、できるだけ多くの意見を集めることが望ましい。長期的な事業を実施する中で社会情勢等も変化するため、市民意見を収集・反映した計画を策定しているということを示す必要がある。

委員長　　：調査票の作成について有効な回答を収集するため、実施に前もって片桐委員などに確認いただくことが望ましい。

西村委員　：現在の検討は足し算の計画であり、必ず引き算を伴うものである。既存公園エリアにおける収益はどの程度か、公園拡張エリアの検討において把握することは重要である。

事務局　　：現在の野々市中央公園の収益はごくわずかである。国の方針として、運動施設をこれまでのコストセンターからプロフィットセンターへの見直すことが示されている。本拡張整備事業についても、イベントやプロスポーツ等の興業のできる場を提供したいと考えている。整備費用の増大することが予想されるが、維持管理・運営の観点から行政の負担の軽減を考慮できることから、バランスを見極めていきたい。

西村委員　：若い世代の意見を踏まえた基本計画となることを望む。
現在は主に、平時の健康福祉を中心に議論がなされているが、災害時の利用も併せて検討が必要である。周辺に明倫高校や病院等の公的な拠点施設の立地も踏まえ、非常時に必要な機能や対応についても検討が望ましい。

委員長　　：質疑事項について考慮、反映させ、策定を進めるようお願いする。

５．　その他
・次回の委員会の議事およびスケジュールの確認がなされた。
・第 3 回委員会は令和 5 年夏頃を予定。

６．　閉会

－以上－